

3-1 倉石武四郎致松浦嘉三郎書簡（圖版）

（京都大學人文科學研究所所藏）

- 一、昭和四年端午節
 - 二、昭和四年六月七日
 - 三、昭和四年六月十三日
 - 四、昭和四年六月二十三日
 - 五、昭和四年七月十一日
 - 六、昭和四年七月二十六日
 - 七、昭和四年八月七日
 - 八、昭和四年十月五日
 - 九、昭和四年十一月二十八日
 - 十、昭和五年一月二十四日
- 附一、昭和四年十月九日來熏閣陳氏致松浦嘉三郎信札
- 附二、倉石發往松浦電報
- 附三、狩野直喜發往松浦嘉三郎電報
- 附四、倉石武四郎發往狩野直喜電報

敬覆奉月初五張大札敬誦中々研究所一家の藏書を購置せしむる案成立致し由仰同
 慶の玉に再座まつる早速徐森玉先生と訪しその帮世を敷設し処理に鄭君に一批の如き
 事李木高より秘に申しもたし外日は全く知る所なき特鬼に叢書に當じに存し由りも名も
 洪家蔵書中より目錄は或許在平中の計目たせたり也知れ下は騰字版の一冊母たし
 推薦書本も有り現狀の如何を詳し由りも秘に調査依頼し其の快諾を得
 中々吉石右は教的許待し下れ奉入を第二章は空は也が大譽對し報告したと同一手段に
 原則は極の賢答に何等の基礎なきも書庫のた大差は
 中々自らの理有る言費は第第一第三案を併用するに必最上策を得たるも有る比に一客
 の貸し三萬元は諸君の存したる一萬元加へ四萬元を坊輝子と補入し研究所の基金處
 書するに事何卒許曾且私に存したる書に當りも要の上層先回楊家の覆檢鑑し
 の外務當局周到な打合しをせられ臨機に処置使し由り折角徐氏が當り説好も一月の
 決定難きと申し徐氏各目對しを折角事しつる大外務省に^{東京に對しは創刊の}系を研究所より^{東京に對しは創刊の}

敬覆御歸朝第一信第二信相連々奉接仕り、研究所も愈々開辦の運びあり、由創業の重
 表より買入御教書の御事誠慰の至に奉存す、御照會の書留に就は文奎未董の二家とも或は目下存
 書多し、有六、(一)附(二)以下、大伴

十三経注疏 既刊原刻本

皇清活解鑄編 初印本

并中史竹簡書片

九通 局刊

漢魏叢書 三十八種木刻本
影印本

冊府元龜 剋刻

二十二子全書 局刻

玉函山房輯佚書 湖南刊
山東刊

漢學堂叢書 春

(黃氏逸書致) 増益五十餘種

續記筆說

文奎

未董

一八〇〇〇 晚印本其不甚佳有三部

(九〇〇〇) 直木本

(七五〇〇)

三〇〇〇〇 平常印

(二一六〇) 商務印

(一八〇〇〇—二〇〇〇)

二二〇〇 印の平常

二四〇〇 晚印難有

三二〇〇 平常

(五〇〇〇—八〇〇〇)

三〇〇〇 平常

一六〇〇

(預約六十五元 増益五十餘種 出版 中國書局)

二、昭和四年六月七日(1)

四庫全書目錄 廣弘明教 三五〇〇

手本〇〇 未示不詳

四部叢刊

白紙 黃紙

(六〇〇,〇〇〇—五五〇,〇〇〇)
(四五〇,〇〇〇)

全上古三代秦漢六朝文

經籍叢書

影刊

一六〇〇 帶補遺(後和中華)

(七五,〇〇〇)
(二六,〇〇〇) 白紙

學津討原

木刻

五〇〇,〇〇〇 鳳島川日藏本

(四五〇,〇〇〇)

影印難覓

(一〇〇,〇〇〇)

五禮通考 禮記通考

一六〇,〇〇〇 潤大

(二〇,〇〇〇)

以上の如くに所在を考へるべきは、其の書は、既印書本の不佳なるものあり、
また、有るは、文に精印の書も、竟るに、却て困難なるものあり、勿論、其は、実用の目的なり、特に、体道求むるものあり、
一面より、其は、実用し、頻繁に、檢索するに、又、最も、完好のものも、確り、可きものも、有る、殊に、此等、の書、の、殆ど、全
部、大學、にも、有る、此、等、中、に、及、借、閱、の、便、宜、も、の、有る、小、冊、の、積、見、し、は、四、部、叢、刊、の、如、き、甲、乙、丙、丁、の、如、き、もの、あり、
他、は、少く、遊、々、と、善、本、精、印、と、若、し、く、然、後、奉、書、す、方、針、に、據、ら、れ、は、如、何、也、と、存、り、お、す、の、可、い、應、急、処
置、に、注、意、し、は、經、籍、叢、書、を、石、印、の、真、の、書、引、用、し、し、佛、(一、二、三、四、五) 一、法、甲、乙、丙、丁、二、四、史、に、就、は、塚、本、原、も、

相談は牛商資本より殿板影印を購置せしむる所助の可し由き殿板の購置は本年
 意義少く上一万円に過ぎず何れも存す殿板の容積は相違なく老石
同室も五洲同室も所蔵あり。
 印二種中大學に付一付の一種の購入を推薦す殿板の格と変じても必要なり又
 五局合刻本を購置するに本十七史の購置方より様を承りて要すると思はるる平
 常の言何れも頁数は必ず獲りて故強ひるべし急ぎ書札の不備を以て購置は悔ひ百世貽
 寸虞中一相違務等一保留せしむるに二字と十分吟味せしめたるに今學年を待たば選
 取すし様解す如何なるに決すし決すし決すし下は度奉待入り北京何れなり
 爲すの淵藪の時機次第に再の程難し程の途に之を尋ひ止むる研究所を離れ大局に
 學界に望むるは大學協力なるべく重難を避り一部一書も多し未すたる有るは目下
 大學方面鈴木島西先生の協賛に例を清く解随筆並集部精密を免考を試し成就
 大學方面圖書資料有限なり是非後つ尻の事なり擇下後願ひ違ふ様研究方面に接助

二、昭和四年六月七日(3)

乞の程もたのびたを存し禁地の新しく自自ら勿論不_レ能_レ不_レ何人をも雇_レ大學既_レ購置_レ清人の
 集_レ集_レ就_レ最_レ刻_レ中_レのものは必要なり(書名著者名英数)刊_レ刻_レ年_レの四_レ項_レ調_レ査_レを_レし_レの_レ様_レ情_レ皆_レ心_レ下_レれ
 承_レり_レの_レわ_レり_レの_レは_レ極_レ速_レと_レ尚_レり_レの_レ多_レ量_レ脱_レ稿_レ散_レ意_レと_レの_レ所_レも_レ案_レ外_レ肝_レ要_レを_レ集_レす_レ具_レ付_レの_レ事_レ也
 日_レ積_レり_レ關_レ也_レと_レは_レ是_レ非_レ此_レの_レ機_レに_レ乘_レり_レ一_レ氣_レ呵_レ成_レ事_レと_レ疾_レ急_レと_レした_レ日_レ夜_レ念_レ勤_レ羅_レ居_レす_レ諸_レ老_レ共_レ計_レ七_レ愈
 佛_レ壯_レ康_レの_レ由_レ慶_レ望_レと_レに_レ存_レり_レ神_レ寓_レ居_レの_レ一_レ乘_レ寺_レに_レ卜_レと_レり_レ由_レ林_レ下_レ神_レ仙_レ道_レの_レ趣_レも_レ弟_レ内_レの_レ佛_レ事_レに_レ欣
 羨_レに_レ不_レ得_レり_レ當_レ地_レ吉_レ山_レ石_レの_レ病_レ後_レ靜_レ養_レの_レか_レ考_レ二_レ・_レ安_レん_レ歸_レ國_レな_レ(大_レ坂_レ右_レ天_レ王_レ寺_レ區_レ北_レ山_レ所_レ三_レ)_レ塚
 寺_レ存_レり_レ南_レ邊_レの_レ途_レに_レ就_レり_レ歸_レ國_レの_レ途_レに_レ歸_レ國_レの_レ留_レ學_レは_レ鳥_レ山_レ老_レ除_レき_レは_レ延_レ英_レ六_レ中_レの_レ向
 入_レつ_レし_レ剩_レり_レ相_レ友_レも_レ北_レ大_レ學_レ院_レも_レ今_レ月_レ二十_レ二_レ音_レ頃_レに_レ暑_レ假_レに_レ入_レつ_レり_レの_レ夏_レも_レ小_レ學_レ方_レ中_レ汲_レ汲_レ疲
 乏_レも_レた_レ存_レ居_レす_レ幸_レの_レ近_レ來_レ支_レ那_レの_レ青_レ年_レ學_レ者_レ中_レ年_レ學_レ者_レとの_レ交_レ渉_レも_レ稍_レ繁_レ々_レ如_レ受_レ益_レの_レ機_レ會_レも_レ日_レた_レ多_レき_レ
 覺_レる_レも_レ
 研究_レ所_レ茶_レの_レ後_レ海_レ外_レの_レ新_レ事_レ案_レ難_レ知_レと_レす_レる_レ程_レあり_レ又_レも_レ漢_レ石_レ經_レの_レ一_レ大_レ塊_レ着_レ其_レの_レ由_レ也
 後_レ和_レ一_レ部_レの_レ佛_レ堂_レ徐_レ氏_レの_レ有_レり_レ今_レ國_レを_レ研_レ究_レし_レ歸_レる_レに_レ後_レ和_レ一_レ塊_レに_レ接_レし_レる_レも_レ松_レ平_レ天
 塚_レの_レ北_レ邊_レの_レ道_レに_レ一_レ寺_レあり_レ存_レ在_レり_レを_レ存_レ行_レむ_レに_レ分_レり_レも_レ由_レ二十_レ二_レ之_レ頃_レに_レ凡_レく_レ佛_レ堂_レに_レき_レは_レり_レと_レす_レ
 松_レ平_レ學_レ士_レ友_レ安
 文_レ也_レ也
 二_レ月_レ初_レ七

二、昭和四年六月七日(4)

至急申す本日徐森玉先生四拜其久別紙の如き目録を承りて感懐者天津陶氏湘に傳り
 目錄を詳覽の如くありて叢書彙刻全集彙刻書目原物に示すもの如く研究所向よりんた
 殊に之を加ふる可きものありて徐先生は推薦だけ有りて全集は後天徐先生は通知ありて其の電報
 目録を速報可し但陶氏は有るを愛蔵家たる書物の吟味は骨髄に入り何れ精刻原印を傳り且
 つ一葉落身もを懸念されたる本を存心吟味し造るべき文字を刻入念拂たる書信相
 當なる先づのことにありて此の事業は研究の第一歩とす。啓者百有
 疏の如くありて一稿は基礎とされざるべきものありて就外稿の如く評定書の如く此
 の銘を機會として之を採録し其の書名をなすは彙刻原印を傳り他は之を刻す。銘の如く是れ
 全集次第には更に傳り及得るものありて其の彙刻を備へ其の分目録を定むるは彙刻の
 恒例に依りて一頁福音を以て官儀に示すは編りたる又は新刻たる未だ補入されざる等にて若干の
 たりし有りて古書前便し有りて甲乙丙案併用の事か秘かに乍実現出来ざるは古書大鳥の如く各
 本を單りて之を急に收購の上殊に完全なる彙集し我々學界に賜りて之を以て何れも極力促進の様

三、昭和四年六月十三日(1)

許君の御手紙を先づ大分お読みし、活動のありさまを其の要約を然る事承り、電報の價
 中々場合(英文の台紙)早く着き、十日後に私文(手紙)陶文の要約に徐氏の承認を得たこと
 は無事甲難き打雷の見込み(手紙)も多し、打雷の体(手紙)も多し、一万回往を以て乙案の
 致意御座ることも、この日は研究所と興論須と許君電を待つこと、外務省に付る多額豫算
 を請求する旨の旨所を策定せしめ、有りし中、この日、向題の金額は向約の時より左なり
 之れは、この日、研究所と東洋人派諸君の談判が、至急決定せしめ、右支拂の方面に
 之れ打合、私秘御手紙決定の電報に接したる、小生、下津と詳細調査を加へ、責任を
 負ひ、之れ有る事、貴会、買金、遺出、事、取、存、天、に、存、し、人、に、存、れ、之、特、に、老、上、に、三、君
 意、成、す、所、以、て、之、を、意、往、得、高、盛、中、に、結、ぶ、所、願、一、万、回、往、大、學、の、押、下、す、所、也、) 州、

松浦之小生也

文下和具
 六月十三日

松浦先生文安

敬啟日前秘電報其 松浦先生風流電報... 唯收... 聊... 研究... 達... 塩色志林... 校礼堂全集... 以上西程... 中... 信... 上... 寺... 寺... 寺...

四、昭和四年六月二十三日

敬啟本月初一付電報其貴翰何也拜接^レ何^レも式進陶文藏事^レ聞^レ狩野所長^レの多
 大の努力^レ以^レ購^レ求^レに^レ力^レを^レ尽^レす^レ趣^レ敬^レ承^レ感^レ佩^レ至^レ極^レに^レ存^レす^レ電^レ報^レ拜^レ接^レと^レ白^レに^レ徐^レ蘇^レ玉^レ先
 中^レ訪^レし^レ其^レ意^レを^レ傳^レ達^レす^レ且^レつ^レ巷^レ口^レ傳^レ分^レ二^レ三^レの^レ臆^レ説^レに^レつ^レき^レ之^レを^レ留^レり^レト^レキ^レ處^レ早^レ進^レ陶^レ文^レの^レ令^レ弟^レ心^レ如
 先生^レと^レ相^レき^レ詳^レに^レ問^レ答^レし^レり^レ幸^レに^レ今^レ臆^レ説^レに^レ違^レき^レず^レ且^レつ^レ目^レ録^レ外^レの^レレ^レも^レあ^レり^レと^レの
 証^レ言^レ頗^レ安^レ堵^レ也^レ且^レつ^レ愈^レ決^レ定^レ之^レ際^レ信^レ日^レ民^レ未^レ道^レを^レ下^レ津^レ詳^レに^レ調^レ査^レと^レ道^レ々^レ旨^レ約^レ未^レ收^レり^レ也^レ
 將來^レ也^レ實^レ主^レ見^レ也^レと^レす^レも^レ注^レ意^レを^レ徐^レ先生^レに^レ委^レ断^レに^レ譲^レ渡^レす^レと^レ銘^レ對^レに^レす^レも^レ其^レ出^レは^レ決^レ放^レに
 下^レり^レ但^レし^レ當^レ否^レ一^レ步^レ踏^レみ^レ出^レす^レ一^レ歩^レ踏^レみ^レ出^レす^レ責任^レと^レ及^レば^レ當^レ否^レの^レ事^レ實^レを^レ保^レつ^レき^レ決^レ定^レせ^レり^レ也^レ
 之^レ切^レ當^レり^レ也^レ幸^レ作^レて^レ日^レ本^レ政^レ策^レに^レ改^レ策^レと^レ改^レ動^レを^レな^レす^レ事務^レ滞^レり^レし^レや^レ之^レ疑^レ懼^レの^レレ^レも^レ
 但^レ本^レ件^レに^レ狩^レ野^レ所^レ長^レが^レ老^レ臘^レ提^レげ^レ未^レだ^レり^レ也^レ趣^レは^レ生^レじ^レも^レ殊^レに^レ追^レ進^レ不^レ去^レの^レ想^レに^レ堪^レへ^レり^レ也^レ
 は^レ小^レ島^レ評^レ議^レ員^レを^レ以^レ程^レ中^レ途^レに^レ下^レす^レ本^レ件^レに^レ関^レ連^レし^レ傳^レ流^レ叔^レ先^レ生^レ菟^レ某^レの^レ信^レ人^レ文^レ書^レ類^レの^レ購^レ取^レの^レ希^レ也^レ
 之^レ知^レり^レも^レ不^レれ^レ叢^レ書^レ如^レ大^レ部^レの^レ不^レ足^レに^レ似^レたり^レ而^レも^レ之^レを^レ一^レ箇^レ人^レの^レ叢^レ書^レが^レ陶^レ文^レの^レ

五、昭和四年七月十一日(1)

業刻と重なりたる折は之と拾はるる故に其の售出の上陶氏のものと重複の様取計を以て目録未だ其も
 一萬元程を以て入得可なり想後より少くも外務省より四萬元、将首より承諾すれは固より
 問題なきに概に三萬元を鑑一文の生ずる營業の之を概とせん北海等虎視眈眈に言ふたに之を以て
 一方は何等かの臨時の法に於て差し重し重し第三三年に守り漸次支年が如何なるかと存
 何れも目録未だ次第と急を寄つて上掲の計を存幸然とせし中を以て地も北東の南東はに限
 らず何れも之より以て本より多寡を以てし而も之がその觀望を以て支那の商人に於ては既に最
 期に近きものあり故に其を見たと申す言辭が今も適切なる表現を以て即ち圖書館の増設にも善
 次第に其の性質を帯び再售出の機会を以て一に概とせん永遠に之を未だのり今も其の虞
 況の研究所基礎を以て書籍自有なる書品は甚だ多し之も姑く之を以て
 のまが一大批の售出も其の機会も其の甚だ多し之も其の甚だ多し之も其の甚だ多し之も其の甚だ多し
 概算探文の交渉の支那側より言録の之を以て一西のりを一將未を如何なる人か未平と之を一

五、昭和四年七月十一日(2)

機會と二は支那學者の潛入する國家を以て到底困難と云ふ事廣言は以て萬一
 内地を北東は永遠に舊より中何れも改竄し易様空想と云ふ之を恐れ一言の改竄
 体系を再推諷の程奉祀する程は燕大の國事版の矣視ゆが昨年半は猶且ん可難大學
 百書の意思と事十百計なきに放棄したるに幾部は曰く改竄の事、自整ゆ而も本年及ば小島
 の翰林の使官の郵多なるに即昔函の南江之鈔の張靈敏の遺學膠言の如く大坂國玉館が劍峯
 の舊海といふ自整ゆる事と事十人入水と云ふ一快心事に有る、塚本君と云歸半以後日養病のため
 一不歸國の大淵氏、曰く船の歸朝の苦業も内地學界の許有想と云わたり、何れも北京、在野堂
 が一朝甚閑に別し、且ついさ、健在と云ふ在野堂のたわわ、物、希本の中心、
 外、

杉浦先生日文安
 解文上第八
 長子
 十一

五、昭和四年七月十一日(3)

敬啟唯今啟程下津一渡之可百世第一事也過りて中由事は可論也之の碑六有坊也
 常三下津志に和字とし本探之極中多可時陶陶宗是凡由事に付不事を極し由事より
 右兩言其序極りて也情ありて電報より十九日付し由事に附り中由事に附り陶又各事は是
 等より下津志に和字とし本探之極中多可時陶陶宗是凡由事に付不事を極し由事より
 陶又各事は是凡由事に付不事を極し由事より
 と何れも之の下津志に和字とし本探之極中多可時陶陶宗是凡由事に付不事を極し由事より
 まはたぬが合ふり捨天付し積寸可りて

論語卷第六 註經一 九百四十六字
 論語卷第五 註經一 千二百八十四字
 論語卷第四 註經一 千二百五十五字
 論語卷第三 註經一 千二百四十二字
 論語卷第二 註經一 千二百九十九字
 論語卷第一 註經一 千二百六十四字

松浦公之六人 去安

六、昭和四年七月二十六日

此に嘉孝先生詩病氣の如き山原も傳書ゆ、此病深なり、其後の詩行違ふ如きも、詩亦知の
 詩模様亦亦と詩知り、下れし、ん、り、か、味、播、庵、之、生、而、結、の、水、察、名、之、は、の、安、居、を、存、日
 の、日、病、中、の、方、中、人、之、心、死、ん、果、亦、兼、は、一、病、狀、と、尋、ね、見、し、り、あ、る、若、一、病、サ、一、と、
 一、日、陳、文、の、之、法、と、嘉、孝、之、生、の、傳、を、の、り、方、病、中、と、い、ふ、と、わ、り、方、一、筆、を、い、う、如、く、そ、の、詩、と、
 幸、な、り、

毛詩卷第九

毛詩卷第十一

毛詩卷第十二

毛詩卷第十三

敬啟北事念、雪天相成、年あゝ景況殊に為り、おと、茲に預け、事務、之のせり、中、陶器、第
 二社念、結算、の、お、に、紙、別紙、目録、之、海、送教、多、本、教、の、精、算、台、記、事、、送、上、した、と、正、を、懸、相、の、際、心、算、を、辨、、送、上、した、と、正、を、懸、相、の、際、心、算、を、辨、、送、上、した、と、正、を、懸、相、の、際、心、算、を、辨、
 卒、修、檢、査、下、し、る、お、ま、の、公、使、館、に、出、頭、証、面、方、法、求、出、返、通、運、に、托、し、今、前、回、日、様、年、籍、以、
 神、戶、を、運、送、す、下、す、箱、数、日、煙、捲、箱、二、个、の、約、三、分、三、大、を、箱、一、不、に、お、ま、の、一、つ、折、り、ん、神、戶、解
 と、送、上、す、滿、田、教、務、本、年、の、如、大、學、の、為、贈、入、した、書、籍、等、一、箱、お、ま、の、お、ま、の、所、証、面、の、方、法
 に、就、水、野、君、の、堂、窓、お、ま、の、精、算、處、運、送、今、回、証、面、に、添、一、公、使、館、に、お、ま、の、四、个、公、使、館、に、お、ま、の、四、个、
 送、上、し、お、ま、の、皆、足、り、滿、田、教、務、本、年、の、如、大、學、の、為、贈、入、した、書、籍、等、一、箱、お、ま、の、お、ま、の、所、証、面、の、方、法
 中、に、本、年、お、ま、の、皆、足、り、滿、田、教、務、本、年、の、如、大、學、の、為、贈、入、した、書、籍、等、一、箱、お、ま、の、お、ま、の、所、証、面、の、方、法

新井先生文安

文下お
 十下合八

九、昭和四年十一月二十八日(1)

通志堂經解
秘冊彙函
蘇齋叢書
珠叢別錄
續古逸叢書
十六家墨說
潘刻五種
積學齋叢書
隨庵叢書
日鏡編
鳴沙石室遺書
宸翰樓叢書
吉石盒叢書四集
雲窗叢刻
玉蘭齋叢書

六十套
八套
四百八十本
四十二本
四套
十套
二本
六本
卅二本
二十四本
一套
一套
一套
一套
二套

雪堂叢刻
懷幽雜俎
誦芬室初編
日 誦芬室二編

中吳紀聞 二本
元典章 八本
中州集 四本
鐵崖先生文集 二本
張氏庵子 一本
梅村尚履初 八本
盜竊雜劇 十本
五代史年話 二本
碎瑣石 二本
皇紀勅記 十三本
元音 四本
金堂集 二本
鐵崖先生遺集 二本
江左白雲 二本
讀曲叢刊 三本
傳芳四種 八本
剪燈新話 三本
以上一十九種

一套
八十五本
二十本

敬啟年頭の御祝辞目下中御の推図曆の第一年中の腦筋去書し人陰曆を以て新編の口下りも年
 秀遷延終末の申得事ゆかり愈々今年も如何に洋橋にも歸せざるなり年頭を以て
 だもの有るも青ふたは神歸若事の新春と云う御感概御中も遠慮のりけい歳書は御迷成り
 萬分と奉託成り此早速親しく御査御知り深謝と云う常山白石も去退回書水紙存稿の抄
 本貴の落筆と云ふに本厚軒も皆原のりりり陶玉第六批未だ到着せず也急合の申到神々同日地
 貴研究宛端も御通知上りるも貴成りりりり第一批中の缺号地志四程は特書庫中より
 控書した記壇もた此も終るなり地都の物れ易なり若し江蘇省局刻の元去祖親征にのめたる再調り下り
 きたる希わたりりり親征以外に何の三種を合し人地壇成りりり百三巻もな装束際りりり地りりり
 一と申すも當りりり放し御授受したる欠一巻も聊も取難或は味方りりり装書の後算上箱の端
 一と申すも一に用ひたる因るに遺棄したるものと申せざるは御引継成りりり御神智と云う年方の改
 一と申すも研究の人物歴史は新機軸と云われりりり御待成りりり天機若りりり渡りりり一編を御子知御りりり
 内地の學界が沈滞の爾易る御望の大私にも御自感も此若りりり起死回生の靈劑と調えざる要員と云う
 學支那諸事と相りりり外途なりりり第一御學者は容易に御悔と肯て干渉に可謂紅頂子の故後
 御りりり稽の如く月收壹千元に達するもや日本人の考を如く教師の收入と目ざれる東洋の如き思ふも御りりり人

十、昭和五年一月二十四日(1)

若し日令禮を尊し、毎年一人位宛を二月聘し、指導を乞ふ外に方法がた、研究院程の青年
 學者對相當以上の禮を以て、相之の嗣業と、東洋の奉じの教員を以て、若し研究に指導
 若し若しは、研究員の日支兩族と、以て人材を求む、譬へ、法華研究院出身諸君の、如く、素の學界に
 活新の空氣を注入する、其の如く、在、益、法華學堂に見る、實に大教授の積り、成しを、一、東、系に於ける、如
 某、科の舊教員、今、何れの學校、向、年、某、氏、の、專、者、と、定、ま、り、學、生、を、亦、任、す、督、し、必、其、氏、を、聘、す、一、年、中
 十、餘、の、薪、水、を、令、む、大、教、授、及、收、入、を、研、究、院、に、任、人、は、な、し、出、勤、の、機、あり、と、す、も、多、く、は、打、倒、し、現、狀、有、り、
 竊、快、の、胸、抱、き、出、洋、の、機、を、も、も、の、以、り、し、是、れ、出、洋、即、ち、彼、等、の、養、育、格、の、唯、一、條、件、を、も、も、し、取、り、以、
 我、學、界、改、新、に、歸、與、之、の、一、澤、而、得、其、果、也、其、澤、具、眼、の、者、也、と、云、ふ、可、き、所、也、而、亦、可、見、如、何、所
 在、の、九、族、大、學、補、給、品、支、那、文、學、科、教、授、支、那、聘、名、列、第、一、西、洋、學、の、諸、教、授、も、大、に、支、持、を
 受、け、東、洋、又、も、方、而、の、石、精、然、り、も、惱、み、は、な、し、而、亦、可、見、如、何、所、在、の、諸、教、授、も、大、に、支、持、を
 書、據、の、要、帳、に、あ、る、事、を、今、日、自、ら、に、述、ぶ、可、き、所、也、
 韓勅脩孔廟後碑
 諫釋卷一

松浦學又文安

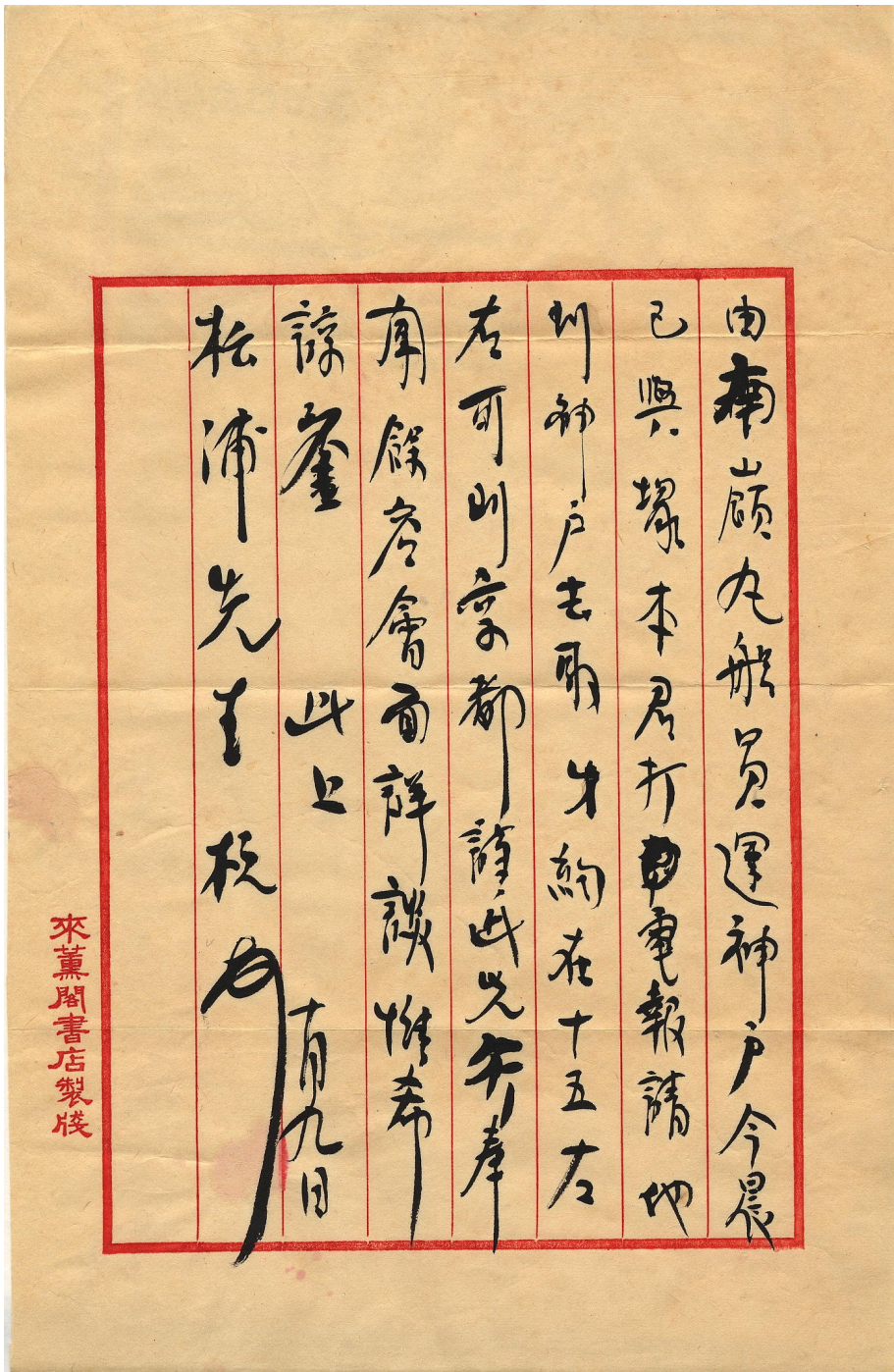
文安
 百廿七

十、昭和五年一月二十四日(2)

謹啓 三日呈上一函 諒蒙
台覽 先于五日興八木先生同
船來方司于八日下午十時到
着即宿在旅舍中 據定今
日九時赴福岡少際即赴京
都 做書展工人同來此行交與
井上先生請他管理此事也
塚本先生書箱十件 才携來

來薰閣書店製版

附一、昭和四年十月九日來薰閣陳氏致松浦嘉三郎信札（1）



來薰閣書店製版

附一、昭和四年十月九日來薰閣陳氏致松浦嘉三郎信札（2）

紙 達 送 報 電

付 送 月 日 分	受 番 号	局 番 号	信 字 号	類 種	宛 名
3 月 2 日 1 分	7 5 3	ホ ウ テ ン	一 五		キ ヨ ウ ト テ イ コ ウ グ ブ チ ン レ ッ ク ワ キ マ イ ケ ン キ ヨ ウ レ マ ウ ウ ラ カ サ ア ロ ウ
受 信 時 刻 者 校 照				定 掛	番 号 117
受 信 時 刻 者 校 照				事 記	若し他人に宛てたるものな らば其の旨附電し或は 郵便局へ返戻せられたし
受 信 時 刻 者 校 照				印 附 日	4.6.19

國
省
信
遞

附二、倉石武四郎發往松浦嘉三郎電報

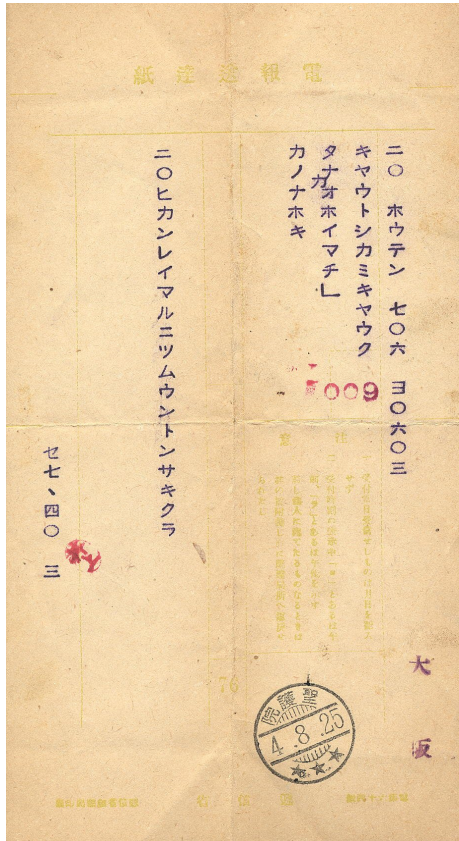
紙 達 送 報 電

98

付 送 月 日 分	受 番 号	局 番 号	信 字 号	類 種	宛 名
3 月 2 日 6 分	4 5 1	ホ ウ テ ン	ニ 三		コ シ カ ウ シ キ ヨ ウ ト テ イ コ ウ グ ブ チ ン レ ッ ク ワ キ マ イ ケ ン キ ヨ ウ レ マ ウ ウ ラ カ サ ア ロ ウ
受 信 時 刻 者 校 照				定 掛	番 号 15
受 信 時 刻 者 校 照				事 記	若し他人に宛てたるものな らば其の旨附電し或は 郵便局へ返戻せられたし
受 信 時 刻 者 校 照				印 附 日	

國
省
信
遞

附三、狩野直喜發往松浦嘉三郎電報



附四、倉石武四郎發往狩野直喜電報